

告示	番号	76	内分泌疾患
	疾病名	口渇中枢障害を伴う高ナトリウム血症（本態性高ナトリウム血症）	

口渇中枢障害を伴う高ナトリウム血症（本態性高ナトリウム血症）

こうかつちゅうすうしょうがいをともなうこうなとりうむけっしょう
(ほんたいせいこうなとりうむけっしょう)

概念・定義

通常、血清または血漿中ナトリウムはどの年代においても 135～145mEq/l にコントロールされている。血中ナトリウムは血液の浸透圧を一定に保つのに重要な役割を果たすため、血中ナトリウム濃度が上昇すれば口渇中枢が働き、ナトリウムを低下させるために飲水行動が起こる。脳内器質性疾患、特に正中奇形や視床下部障害により口渇中枢の障害が起こると、飲水行動が起こらないために高ナトリウム血症が起こる。これを広義の本態性高ナトリウム血症と呼ぶ。

さらに狭義の本態性高ナトリウム血症は、口渇中枢の障害があることに加え、明らかな水分摂取不全がなくても血中ナトリウム値の変動を見るもので、同一の症例で低ナトリウム血症も併発しうる。病因は不明であるが、ナトリウム利尿ペプチドや未知の因子の作用が考えられている。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/5_8_12.html